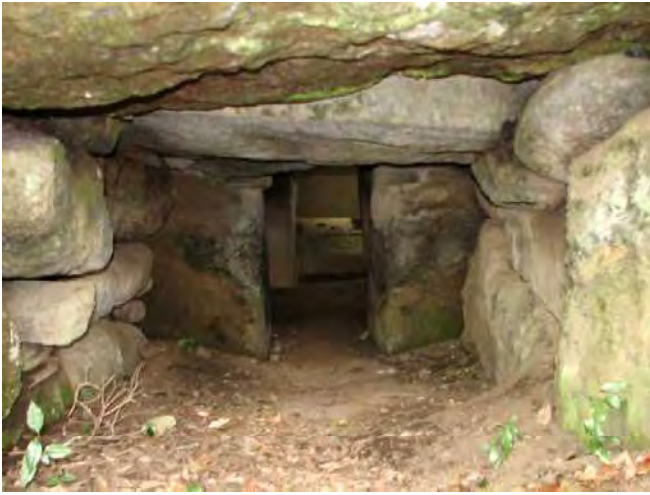


# 手野の古墳

文化財保護委員 武田 賢次

阿蘇市役所から北に約4キロの位置にある、一の宮町手野の集落には国造神社周辺をはじめ各所に古墳が点在し、下表が文化財に指定されています。



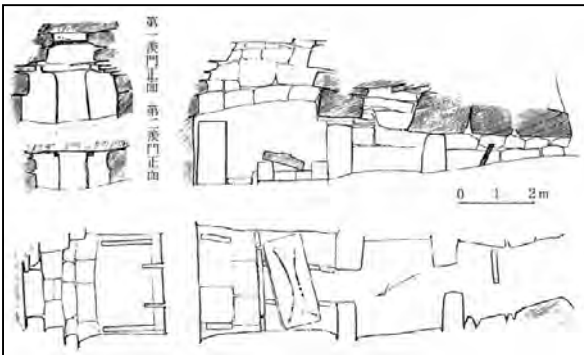
上御倉古墳石室開口部

No.	指定区分	名称	指定年月日	備考
1	県史跡	上御倉古墳	昭和32年12月 8日	円墳・横穴式石室・家形石棺
2	県史跡	下御倉古墳	昭和32年12月 8日	円墳・横穴式石室・家形石棺
3	市史跡	迎平古墳群(七ツ塚)	昭和52年 1月22日	5基現存
4	市史跡	東手野古墳群	昭和52年 1月22日	和田3家墓地内の石棺ほか
5	市考古資料	迎平古墳出土品	平成19年 3月28日	鏡1面(県寄託)・直刀1振
6	市考古資料	平井古墳出土品	平成19年 3月28日	鉄剣2振・轡

今回は上御倉古墳と迎平古墳出土品を紹介します。

上御倉古墳は、国造神社の鳥居から西に60メートル程のところにあります。初代阿蘇国造の速瓶玉命の神陵と伝えられ、直径約33メートル、高さ約5・3メートルの大きさの円墳です。内部は横穴式石室で奥行は約10メートルあり、前室と後室をもつ複室式の構造で巨大な安山岩と阿蘇溶岩の切石を用いて造られています。時代は6世紀の中頃と考えられています。

墳丘の現況は小笹竹と雑木に覆われ、墳丘の裾部は耕作のためやや削られています。隣接する下御倉古墳と共に県下を代表する巨石墳です。



上御倉古墳石室実測図(熊本県文化財調査報告第3集より)



6号墳から出土した  
画文帯環状乳神獸鏡  
(国造神社蔵)

また、古くから開口しており、地域では風穴と呼ばれています(阿蘇の農耕祭事の風祭の風穴とは別です)。石室内部には照明設備があり、精巧に造られた石組を見ることが出来ます。

一方、迎平古墳群は現在5基残っていますが、以前は7基あったと伝わっており、別名七ツ塚とも呼ばれています。昭和48年の圃場整備工事により、6号墳は破壊されてしまいました。画文帯環状乳神獸鏡と鉄剣が出土しました。

この鏡と同型(铸造型が同一)の鏡は、和水町の江田船山古墳(前方後円墳・国史跡:銀象嵌銘文大刀などの出土品は国宝)、宇城市の国越古墳(前方後円墳・県史跡)のほか、宮崎、福岡県、香川県の5例が知られています。

このことから、阿蘇地域の支配者層が中央の大和政権との強い結びつきを示す貴重な遺物であることがいえます。